

日本語教育学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
日本語教育学特論Ⅰ	年少者日本語教育	2	高橋 亜紀子	前期集中 その他 連講
日本語教育学総合演習Ⅰ	課題研究Ⅰ	2	島崎 薫, 小河原 義朗	前期 水曜日 5講時
日本語教育学総合演習Ⅱ	課題研究Ⅱ	2	小河原 義朗, 島崎 薫	後期 水曜日 5講時
日本語教育方法論研究演習Ⅰ	言語理解学習過程	2	小河原 義朗	後期 金曜日 3講時
日本語教育方法論研究演習Ⅱ	日本語教育における論文講読	2	島崎 薫	後期 水曜日 2講時
日本語教育学研究演習Ⅰ	言語技能と教育	2	小河原 義朗	前期 金曜日 3講時
日本語教育学研究演習Ⅱ	実践コミュニティでの学び	2	島崎 薫	前期 火曜日 3講時
日本語教育学研究実習Ⅰ	日本語コース運営の基礎	2	島崎 薫	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時
日本語教育学研究実習Ⅱ	日本語コースの運営と改善	2	島崎 薫	後期 水曜日 3講時 後期 水曜日 4講時
日本語教育学研究実習Ⅲ	海外インターンシップ	2	小河原 義朗	通年集中 その他 その他

科目名：日本語教育学特論 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM98809, 科目ナンバリング：LJS-LIN615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：年少者日本語教育
2. Course Title (授業題目)：Japanese language education for children
3. 授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In recent years, the number of foreign residents has increased significantly, and at the same time, the number of foreign children whose mother tongue is not Japanese is also increasing in Japanese schools. In this class, students will develop their understanding of foreign children who need Japanese language supports and gain fundamental knowledge of Japanese language teaching and learning support for them.
5. 学習の到達目標：1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。
2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。
3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
-enhance their understanding of the current situation and issues of education for foreign children
- understand and describe the difficulties in life and learning of children
-gain fundamental knowledge of Japanese language teaching for children and be able to support them
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (1)
 3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (2)
 4. 子どもの生活や学習上の困難点 (1)
 5. 子どもの生活や学習上の困難点 (2)
 6. 子どもへの日本語支援の方法 (1) 受け入れの準備
 7. 子どもへの日本語支援の方法 (2) サバイバル・日本語基礎
 8. 子どもへの日本語支援の方法 (3) 日本語指導と教科の統合学習
 9. 子どもへの日本語支援の方法 (4) 教科の補習
 10. 子どもへの日本語支援体験 (1)
 11. 子どもへの日本語支援体験 (2)
 12. 子どもへの日本語支援体験 (3)
 13. 体験の振り返り
 14. 教師の役割
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%
9. 教科書および参考書：
文部科学省 (2019)『外国人児童生徒受入れの手引き (改訂版)』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
*授業では、子どもの支援を実際に行うことを予定していますが、諸事情により実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：日本語教育学総合演習 I / Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫, 小河原 義朗

コード：LM13502, 科目ナンバリング：LJS-LIN618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究 I

2. Course Title (授業題目) : Topic Research 1

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study topics (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves afterwards.

5. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

(1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3) 各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）

第9回：修士課程2年生による結果報告

第10回：修士課程2年生による分析報告

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語教育学総合演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗・島崎 薫

コード：LM23502, 科目ナンバリング：LJS-LIN619J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Topic Research 2

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves.

5. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

(1)様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2)聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3)各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their own study

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）とディスカッション

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）とディスカッション

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）とディスカッション

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）とディスカッション

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第9回：修士課程2年生による結果報告とディスカッション

第10回：修士課程2年生による分析報告とディスカッション

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）とディスカッション

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）とディスカッション

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語教育方法論研究演習 I / Methodologies in Japanese Language Teaching (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM25302, 科目ナンバリング：LJS-LIN620J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語理解学習過程
2. Course Title (授業題目)：The process of Language learning and understanding
3. 授業の目的と概要：人がことばを理解し学習するとはどういうことなのか、その様々な考え方や理論について理解を深める。その上で、聴解または読解の教材を分析し、教材案を作成し、模擬授業を実施して授業分析をすることによって、教育方法や学習方法の改善につなげる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students deepen their understanding of theories related to language learning. Students also analyze various teaching materials, their own teaching materials, and their microteaching practices to improve their ways of teaching in class.
5. 学習の到達目標：(1)言語の理解・学習過程についての理論的な背景を理解し、説明できる。
(2)理論的な背景を踏まえて、教材を分析・作成し、実践に結び付けることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is
 1. to help students explain theoretical backgrounds of language learning
 2. to provide them opportunities to analyze, create effective teaching materials and be able to apply them to teaching practice.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業実施方法（授業の実施形態：）
 - 第1回：イントロダクション
 - 第2回：言語の学習とは
 - 第3回：言語理解学習のメカニズム
 - 第4回：言語の記憶・処理過程
 - 第5回：言語の理解・産出過程
 - 第6回：学習科学
 - 第7回：教材分析（聴解）
 - 第8回：教材作成（聴解）
 - 第9回：模擬授業（聴解）
 - 第10回：授業分析（聴解）
 - 第11回：教材分析（読解）
 - 第12回：教材作成（読解）
 - 第13回：模擬授業（読解）
 - 第14回：授業分析（読解）
 - 第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
レポート 50%、授業課題 50%
9. 教科書および参考書：
授業中に適宜資料を配布する。
10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。
「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅱ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM23203, 科目ナンバリング：LJS-LIN621J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育における論文講読
2. Course Title (授業題目)：Critical Reading in Japanese Language Education
3. 授業の目的と概要：受講者が興味関心のある領域の研究論文を持ち寄って批判的に検討し、研究論文の内容をまとめる力、批判的に検討する力を養う。また、先行研究を検討した上でどのように問いを立てるのか、先行研究を論文でどのようにまとめるのかについても学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will bring research papers in their areas of interest for critical review, and develop the ability to summarize and critically examine the content of research papers. In this course, they will also learn how to create questions after reviewing previous research and how to write a dissertation literature review.
5. 学習の到達目標：・自分が興味関心のある領域の研究論文の要旨をまとめることができる
・自分が興味関心のある領域の研究論文を批判的に読むことができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, successful students will be able to:
-summarize the abstracts of research papers in his/her area of interest
-critically read research papers in his/her area of interest
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 (10/1)：イントロダクション、問いを立てるとは①
第2回 (10/8)：問いを立てるとは②
第3回 (10/15)：先行研究をレビューするとは
第4回 (10/22)：先行研究の批判的検討①
第5回 (10/29)：先行研究の批判的検討②
第6回 (11/5)：先行研究の批判的検討③
第7回 (11/12)：先行研究の批判的検討④
第8回 (11/19)：先行研究の批判的検討⑤
第9回 (11/26)：先行研究の批判的検討⑥
第10回 (12/3)：先行研究の批判的検討⑦
第11回 (12/10)：先行研究の批判的検討⑧
第12回 (12/17)：先行研究の批判的検討⑨
第13回 (1/7)：研究倫理
第14回 (1/14)：先行研究の章の書き方
第15回 (1/21)：まとめ
12/24は休講の予定です。そこまでに授業を休講にした場合は、補講として授業を実施します。
8. 成績評価方法：
授業参加態度 30%、授業での課題 60%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語教育学研究演習 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM15302, 科目ナンバリング：LJS-LIN623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語技能と教育

2. Course Title (授業題目) : Language skills and Teaching

3. 授業の目的と概要： 学習者が話す、または書くことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉・書き言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、または書き言葉の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話す、または書く可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students will explore what language teachers should do to improve learners speaking/writing skills in the Japanese language classroom,

5. 学習の到達目標：(1) 話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2) 目的に応じて話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動を考え、教材を作り、評価することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After completing this course, students will be able to:

1. better understand syllabus and classroom activities to improve learners speaking/writing skills

2. create effective teaching materials and evaluate them for themselves

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：コミュニケーション活動の実際1

第3回：コミュニケーション活動の実際2

第4回：会話・作文の分析1

第5回：シラバスの検討1

第6回：教室活動の検討1

第7回：会話・作文の分析2

第8回：シラバスの検討2

第9回：教室活動の検討2

第10回：会話・作文の分析3

第11回：シラバスの検討3

第12回：教室活動の検討3

第13回：フィードバックと評価1

第14回：フィードバックと評価2

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%・課題 50%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本語教育学研究演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM12304, 科目ナンバリング：LJS-LIN624J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：実践コミュニティでの学び
2. Course Title (授業題目)：Learning in Communities of Practice
3. 授業の目的と概要：この授業では、実践コミュニティに関する理論を学び、その理論を使って活動をデザインし、実践する。そしてその実践がどうだったのかを評価、検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will enhance their understanding of theories related to Communities of Practice. Then the course will provide them with opportunities to design and conduct activities of language learning based on these theories. At the end of the course, the students will evaluate these activities.
5. 学習の到達目標：・正統的周辺参加論、実践コミュニティの理論を理解し、説明することができる
・それらの理論を使い、活動をデザインすることができる
・実施した活動がどうだったのかをデータに基づき、評価することができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
 - ・understand Legitimate Peripheral Participation and Communities of Practice
 - ・design and conduct activities based on these theories
 - ・evaluate the activities based on data
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 (4/9)：イントロダクション、社会文化理論から学習をとらえるとは
 - 第2回 (4/16)：正統的周辺参加とは
 - 第3回 (4/23)：実践コミュニティとは
 - 第4回 (5/7)：実践コミュニティに関する実践の検討①
 - 第5回 (5/14)：実践コミュニティに関する実践の検討②
 - 第6回 (5/21)：活動のデザインの検討①
 - 第7回 (5/28)：活動のデザインの検討②
 - 第8回 (6/4)：実践とデータ収集
 - 第9回 (6/11)：実践とデータ収集
 - 第10回 (6/18)：実践とデータ収集
 - 第11回 (6/25)：実践の検討と修正
 - 第12回 (7/2)：実践とデータ収集
 - 第13回 (7/9)：実践とデータ収集
 - 第14回 (7/16)：実践とデータ収集
 - 第15回 (7/23)：まとめ4/30は休講予定です。
8. 成績評価方法：
授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：火曜日 17:30-18:30 に実施される会話セッション「みんなのひろば」にて実践をします。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語教育学研究実習 I / Applied Japanese Linguistics (Practice) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時、前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM98815, 科目ナンバリング：LJS-LIN625J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎
2. Course Title (授業題目)：Conducting a Japanese Language Course I
3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力、そしてその自身の実践を振り返って改善案を考えることができる力を養成することを目的とする。前期は、コースデザインの仕方について学び、後期に実施する東北大留学生向けのコースに関して、彼らのニーズ・レディネス、置かれている環境等を分析して実際にコースデザインをするとともに、そのコースの実際の授業の中でどのような教材・教具を使ってどのように教える
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through the teaching practicum in the spring and fall semesters, students will develop the ability to design Japanese language courses that meet the needs and readiness of learners and their learning environment, prepare the necessary teaching materials and equipment for each class, and conduct the class. They can also enhance the ability to look back on their own teaching and make improvements. In the spring semester, students will learn how to design a course, and actually create a course for the international students at Tohoku University based on the analysis of the needs, readiness, and environment of them, and consider how to teach using teaching materials and tools in actual classes of the course. Through mock classes, students will be able to reflect on their own class design, teaching methods, teaching materials and tools, etc., and come up with ideas for improvement.
5. 学習の到達目標：・実習の目的・目標を理解し、日本語教師として求められる資質・能力と実習がどのように関わっているのかを理解する
 - ・学習者のニーズ・レディネス、環境などを分析し、学習者に合ったコースをデザインすることができる
 - ・コースの目的・目標に合わせて、授業をデザインし、必要な教材・教具を準備することができる
 - ・模擬授業を通して、授業のデザインや教え方、教材・教具などについて振り返り、改善案を考えることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
 - understand the purpose and goals of the practicum and how it relates to the qualities and abilities required of a Japanese language teacher.
 - analyze the needs, readiness, and environment of the learners and design a course that is appropriate for them.
 - design lessons and prepare necessary teaching materials and equipment in accordance with the objectives and goals of the course.
 - reflect on lesson design, teaching methods, teaching materials and equipment, etc. through mock classes, and to be able to think of ways to improve them.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 第 1 回 (4/10)：オリエンテーション
 - 第 2 回 (4/17)：コースデザインとは①
 - 第 3 回 (4/24)：コースデザインとは②
 - 第 4 回 (5/8)：模擬授業
 - 第 5 回 (5/15)：コミュニケーション能力とは
 - 第 6 回 (5/22)：学習者の日本語の習熟度とは
 - 第 7 回 (5/29)：多様な授業内活動①
 - 第 8 回 (6/5)：多様な授業内活動②
 - 第 9 回 (6/12)：多様な授業内活動③
 - 第 10 回 (6/19)：授業準備・模擬授業①
 - 第 11 回 (6/26)：振り返り①、授業準備・模擬授業②
 - 第 12 回 (7/3)：振り返り②、授業準備・模擬授業③
 - 第 13 回 (7/10)：振り返り③、授業準備・模擬授業④
 - 第 14 回 (7/17)：振り返り④、授業準備・模擬授業⑤
 - 第 15 回 (7/24)：振り返り⑤まとめ5/1 は休講予定です。
8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：授業外の時間に授業見学を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。
11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：日本語教育学研究実習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Practice)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM23309, 科目ナンバリング：LJS-LIN626J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善

2. Course Title (授業題目)：Conducting a Japanese Language Course II

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力、そしてその自身の実践を振り返って改善を図ることができる力を養成することを目的とする。後期は前期にデザインしたコースを実際に運営し、授業を行いながらコースの改善、授業の改善に取り組む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through the teaching practicum in the spring and fall semesters, students will develop the ability to design Japanese language courses that meet the needs and readiness of learners and their learning environment, prepare the necessary teaching materials and equipment for each class, and conduct the class. They can also enhance the ability to look back on their own teaching and make improvements. In the fall semester, the students will actually run the courses designed in the spring semester and work on improving the courses and classes while teaching.

5. 学習の到達目標：・デザインしたコースを他の学生と協力しながら運営することができる

・単独で教壇に立って授業を実施することができる

・自身の実践を客観的に分析することができる

・自分やグループのメンバーの実践を振り返り、授業自体やコース全体の改善を図ることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

-design and run a course in collaboration with other students.

-teach a class independently

-analyze one's own practice objectively

-improve the classes and the course as a whole by reviewing their own and their group members' practices.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (10/2)：コース開講の準備①

第2回 (10/9)：コース開講の準備②

第3回 (10/16)：模擬授業①

第4回 (10/23)：模擬授業②

第5回 (10/30)：模擬授業③

第6回 (11/6)：模擬授業④

第7回 (11/13)：模擬授業⑤

第8回 (11/20)：振り返り①

第9回 (11/27)：振り返り②

第10回 (12/4)：振り返り③

第11回 (12/11)：振り返り④

第12回 (12/18)：振り返り⑤

第13回 (1/8)：振り返り⑥、コースデザインの評価

第14回 (1/15)：授業分析中間発表

第15回 (1/22)：コース全体の振り返り、まとめ

12/25は休講予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、教案・振り返り 30%、授業分析報告書 20%、実習報告書 20%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に教壇実習（対面）を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語教育学研究実習Ⅲ／ Applied Japanese Linguistics (Practice) III

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM98816, 科目ナンバリング：LJS-LIN614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：海外インターンシップ

2. Course Title (授業題目)：Japanese language education internship abroad

3. 授業の目的と概要：日本語教員養成課程を通して得た知識とスキルを踏まえて、長期休業中に約2週間海外の日本語教育現場に行き、どのような学習者がどのような学習環境で日本語を学習しているのかを知り、どのような日本語教育が行われているのかを見学し、さらに現地日本語コースの教員の指導のもとで日本語を実際に教えることを体験する。同時に現地における異文化や異文化コミュニケーションを体験する。なお、本年度は2、3月中に実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class provides students with opportunities to participate in Japanese language education internship abroad for 2 weeks. The students will see what people are learning Japanese language overseas and how Japanese language classes are conducted, and have experience to teach Japanese in classes as a student teacher.

5. 学習の到達目標：1. 海外の日本語教育と学習者の多様性を知る

2. 海外の日本語教育の現場を見て学ぶ

3. 海外の日本語教育の現場で実際に教える体験をする

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- understand Japanese language education and a variety of Japanese language learners overseas
- observe Japanese language teaching classes overseas
- get experiences to teach Japanese language overseas

7. 授業の内容・方法と進度予定：

スケジュール (予定)

事前活動①：オリエンテーション

事前活動②：現地教員との打ち合わせと準備

事前活動③：現地とのオンライン日本語クラス参加

事前活動④：進捗状況報告と最終打ち合わせ

海外インターンシップの実施 (約2週間)

事後活動①：振り返り、報告書の作成

事後活動②：報告会の開催

日程の詳細は、インターンシップの日程が決まり次第、履修学生と調整する。

8. 成績評価方法：

事前課題 50%、事後報告書 50%

9. 教科書および参考書：

授業内で指示する。

10. 授業時間外学習：基本的に海外インターンは授業時間外に行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

- ・学部の日本語教育学実習 (前後期) を履修済であること。
- ・海外インターン先の事情により、開講されないことがある。
- ・履修人数に制限があるため、履修希望者は、学期前に担当教員に連絡し相談すること。